

統一協会 危険な二つの顔

自民党との癒着究明を

統一協会は二つの顔—①靈感商法で甚大な被害を出している反社会的カルト集団②

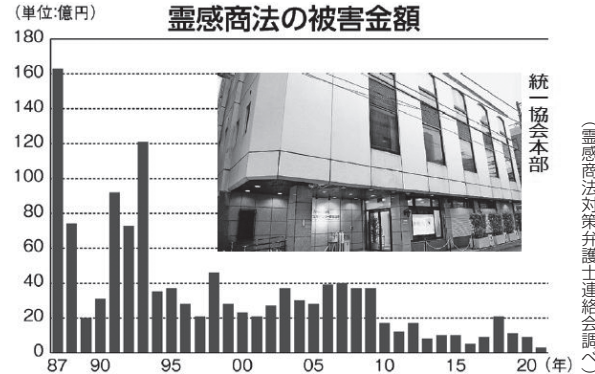
反社会的カルト集団

統一協会（世界平和統一家庭連合）は「世界基督教統一神霊協会」として韓国で1954年に設立。開祖は文鮮明（2012年死去）。「世界的な『政教一致国家』を樹立する」ための資金集めを担ったのが、日本の統一協会です。

統一協会は「先祖の因縁がある」「地獄に落ちる」「運気を払う」などとして高額な印鑑やつぼを購入させる「靈感商法」を行い、被害は1987年から2021年までで約1237

日本共産党

表裏一体の政治組織「国際勝共連合」による“反共と反動”の先兵役—を持っています。



億円に上ります（靈感商法対策弁護士連絡会調べ）。統一協会がコンプライアンス（法令順守）を強化したと主張する09年以降も被害は続いています（グラフ）。

勝共連合 反共・反動の先兵

勝共連合は文鮮明を“創始者”として1968年に韓国で結成。「勝共」とは単なる反共でなく「共産主義をこの地球上から完全に一掃する」（文鮮明「統一世界宣言」）=共産主義思想の抹殺=ことを目的にしています。右翼・笹川良一、安倍元首相の祖父・岸信介元首相らを発起人に68年に日本でも発足しました。

選挙妨害、反共・謀略ビラの配布や自民党への選挙支援は、反動支配勢力に取り入るため。民主府政を転覆させた78年の京都府知事選では反共の宣伝・街頭活動を大々的に展開し、反動支配層から高く評価されました。



京都府知事選挙に全国から動員された勝共連合=1978年4月、京都市四条河原町（共産党ホームページより）

反共の安倍氏を尊敬。各地で選挙応援した

「勝共」トップが証言

NHK番組

国際勝共連合など統一協会関連団体のトップを務める梶栗正義氏が8月29日、NHKテレビ「クローズアップ現代」のインタビューに応じ、安倍政治に賛同して選挙支援したことを認めました。

梶栗氏は冒頭、「数ある反共意識の高い政治指導者を応援させていただいた中に安倍家3代の方もおられた」と証言。安倍晋三元首相について「反共意識が強いリーダーの一人だったので尊敬していた」とのべ、「安民法制など安倍元首相が掲げてきた政策に対して、理解を深めるためのさまざまな勉強会を各地で行い、選挙では応援を依頼された方を各地において応援させていただいた」と語りました。

速やかに臨時国会開け

統一協会と岸田政権・自民党との癒着、批判が高まる「国葬」、コロナ感染や物価高騰対策—野党は憲法53条にもとづき臨時国会の召集を求めましたが、岸田政権は応じていません。速やかに国会を開き、説明責任を果たすべきです。